

2010年4月2日

総理大臣

鳩山由紀夫 様

今から約半年後の2010年10月、日本の愛知県名古屋市において生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、日本は開催国としてCOP10議長国を務められます。

私たちスウェーデン自然学校協会代表団は、この重要な時点における日本の国際評価の行方を心配している旨をお伝えしたくこの手紙を送ることにしました。私たちは、日本が無意識的に重大なリスクを抱えていると考えています。私たちは今回の訪日を通じて日本という国がとても好きになりました。それゆえに、このリスクを指摘する必要があると強く感じました。

私たち代表団は、2010年3月22日より4月2日までの間、日本の数多くの美しい自然を訪ねました。その中には、人口の密集する大都市の近くに残る貴重な自然もありました。これらの自然は、自然学校の教師である私たちから見ても、自然学校の活動場所ならびに野外教育、生物多様性教育そして環境教育の実施に適した豊かな生態系の宝庫だと思いました。他方で、日本の方々との会合および議論を通じて、都市に住む多くの人々が自然から離れた生活を送っていることも知りました。人々のアクセスしやすい自然が少ないからこそ、都市近郊の自然がますます貴重なのだと思います。しかしながら、これらの自然が民間あるいは公共の建設事業により間もなく破壊される予定だという事実にはショックを受けました。この事実をお伝えしなければなりません。

日本は議長国としてCOP10の成功を期待できるのでしょうか。私たちは、逆のことが起こる、すなわち、世界中の国と人々が私たちと同様にショックを受けるおそれがあるのではないかと考えています。

数々の美しい自然を訪問して私たちは現実とは違うビジョンを描いてみました。一例として、谷底に広がる静寂な湿地帯に向かって、トラックやブルドーザーのために建設中の道路建設現場を訪ねました。そこで道路の代わりに、子どもたちが軽やかな足で歩く小道を想像し、遊びたい気持ちがいっぱい、期待がたっぷりの心を持った子どもがトンボや蛙、ウグイス、そして美しい欄の花との出会いに胸を高鳴らせている様子を想像しました。小道の途中で子どもたちが熱意ある自然学校の教師と出会い、その教師が子どもたちに小さなパラダイスを案内することを楽しみにしている場面が思い浮かびました。その自然学校教師が、自然を教室として活用し、子どもたちの自然に対する好奇心と探求心を原点とし、学校の教室と同じように算数や科学、国語や英語など日本の学習指導要領に沿った教育を行っている様子を想像しました。

6か月後に控えたCOP10を契機として私たちが訪れたこれらの自然地域は、日本人が自然との関わりを取り戻し、ユニークな日本文化の特徴である「人と自然との調和」という考え方を再度表現する素晴らしい機会を生み出す可能性があります。そうすれば、日本人はそれらの美

しい自然地域を大事にするようになり、それが世界の人々にとっての見本となり、他地域での取り組みの励みにもなるでしょう。

私たちは今回の滞在中に日本各地に多くの資源があることを発見しました。日本にも多くの自然学校があり、教員養成課程の学生や現職の先生方に向けた自然を生かした教育方法を伝授できる優れた能力を持つ人々がたくさんいます。これは、日本の生物多様性保全のための重要な資源です。私たちスウェーデン自然学校代表団は、鳩山首相が日本のこれらの資源に気付かれ、かれらに持続可能な日本社会の創造において重要な役割を果たす機会を与えていかれることを心より願っています。

スウェーデン自然学校協会を代表して

Representing the Swedish Nature School Association

マッツ・ウエイドマルク

ニーネスハムン自然学校

スウェーデン、ニーネスハムン市

Mats Wejdmark

The Nature School of Nynäshamn

Nynäshamn City, Sweden

イレーン・ベリユマン

ハルムスタド自然学校

スウェーデン、ハルムスタド市

Iréne Bergman

The Nature School in Halmstad

Halmstad City, Sweden

ローベルト・レットマン

ニーネスハムン自然学校

スウェーデン、ニーネスハムン市

Robert Lättman

The Nature School of Nynäshamn

Nynäshamn City, Sweden

ミア・ブッシュェット

ファール自然学校

スウェーデン、ファールン市

Mia Bucht

Falu Nature School

Falun City, Sweden